

ひとりごと

「ウルル」

昨年2月、人生で初めてオーストラリアに海外旅行へ行った。オーストラリアへ行った理由は、死ぬまでに「ウルル」を自分の目で見たいと思ったからである。「ウルル」とは、「地球のヘソ」と呼ばれている「エアーズロック」のことで、「ウルル」を聖地とする「アボリジニ（オーストラリアの先住民）」の人々の呼び方である。

現地では、セグウェイで「ウルル」の麓を巡るサンライズツアー・ラクダで「ウルル」を巡るサンセットツアー・「キングスキャニオン」日帰りツアーに参加し、時間や天気によって色が変わる「ウルル」の美しさ、オーストラリアならではの大自然の壮大さをたっぷり堪能した。

じつは、「ウルル」へ行った理由は、もう一つある。「アボリジニ」の人々の生活や文化を見たかったからである。「ウルル」は砂漠のど真ん中にあり周囲に何もなため、「ウルル」に行く人は、「エアーズロックリゾート」というエリアに全員宿泊する。リゾートの敷地内では「アボリジニ」の親子が絵を売っていたり、公園で遊んだりしていた。このように、シドニーやケアンズではお目にかかれない「アボリジニ」の人々の生活や文化を垣間見ることができた。

リゾート内には、「アボリジナルアート」のミュージアムがあった。大自然の中で狩猟・採集生活をしていた「アボリジニ」の人々には読み書きするための文字がなく、代わりに絵を描くことで様々な情報を伝えていた。ミュージアムの作品を鑑賞すると、これまで西洋画や日本画ばかり鑑賞していた私には、何を意味しているのかほとんど分からなかった。現地で模様のことを調べながら鑑賞すると、一見抽象画のように見えていたものが、不思議と意味しているものを想像できた。そして、絵画の構成要素は全て自然とのつながりを表象していることが分かった。

異国の生活や文化に触れることで、色々と感じることがある。海外旅行は、リゾート地に行っのんびり過ごすのも良いが、日本では味わえない異国の生活や文化を感じることができるのも魅力である。海外旅行は、刺激や学びの宝庫であり、仕事の刺激や学びとは異なる。

私は、海外旅行という一生の趣味を持って、世界一の幸せ者だ。

(N.T)

「教育委員会月報 令和6年1月号 No.891」

- ・発行・著作 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
- ・〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
- ・TEL : 03-5253-4111 (代表)
- ・URL : <https://www.mext.go.jp>



文部科学省